

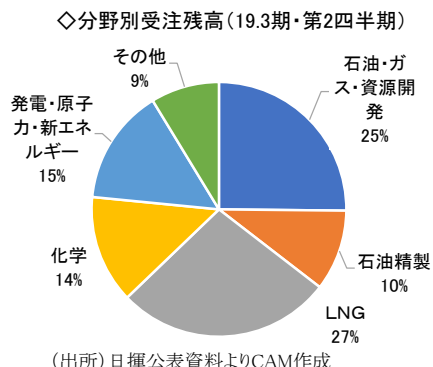
企業ニュース 日揮

(東証1部：1963) <http://www.jgc.com>

作成者：奥村義弘

世界屈指のエンジニアリングコンストラクター

1928年設立。世界各地で石油、天然ガス、石油化学などのオイル&ガス分野を中心に、発電プラント、非鉄金属プラントなどのエネルギー・産業インフラ分野、医薬品工場、環境施設などの社会インフラ分野に至る幅広い分野でプラント・施設の建設を手掛ける。19.3期・第2四半期累計の売上高構成比は総合エンジニアリング91%、機能材製造8%、その他1%。世界のトップエンジニアリングコンストラクターであるベクトルの4兆円規模、フルアの2兆円規模、テクニップ、C B I、サイペンの1.5兆円規模の売上高に肩を並べるべく、17.3期～21.3期の新中計では21.3期の売上高1兆円以上、当期純利益600億円、ROEは10%以上の継続などを目標に掲げている。



受注環境は明るい。良好なプロジェクト管理能力を発揮

19.3期・第2四半期(4-9月)の連結業績は、受注高が1,760億円、前年同期比50%減、売上高が2,783億円、同19%減、営業利益が103億円、同24%減。大幅な減収減益だが想定済みで、ネガティブサプライズではない。一部中東の案件などの遅れで通期の売上予想を下方修正したが、第2四半期時点の粗利益率は7.4%、同0.2ポイント改善した。通期の受注予想額は1兆円だが、目標達成が視野に入っている。第3四半期にLNGカナダの受注6,300億円が計上される見通し。その他約500億円の受注も足元までで固めており、計画に対して残り約1,500億円となっている。またこれまで、競合他社にあったような多額の追加損失の発生はない模様で、LNGカナダの案件は成功に向けてリスク管理を徹底している。イクシスやヤマルの経験者を投入し、アジア圏で超大型モジュールを建造することで現地工事を極小化している。他の案件は選別受注で対応している。20.3期に向けても北米のLNGや化学、中東のLNGやガス処理、石油精製、アフリカのLNG、東南アジアの石油精製、化学、LNG受入基地、火力発電、空港、国内では化学、医薬・医療、太陽光発電、バイオマス発電、風力発電など豊富な案件を有している。

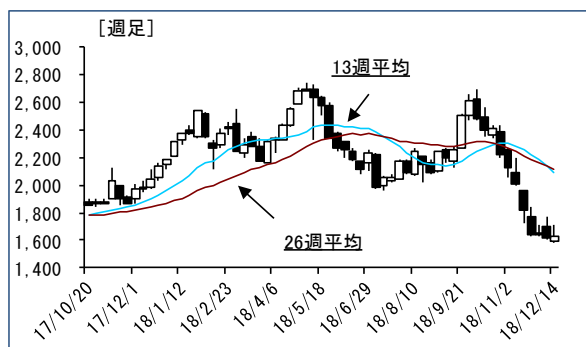
[株価動向・投資判断]

株価は競合他社のトラブルもあり連れ安したが、良好な受注環境や徹底した収益管理体制など業績の安心感が高い。先行きの需要環境も良好で評価が高まる動きに期待したい。

<1963 日揮 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
17.3	693,152 (▲ 21)	▲ 21,496 (-)	▲ 15,215 (-)	▲ 22,057 (-)	▲ 87.4	30.00
18.3	722,987 (4)	21,495 (-)	24,927 (-)	16,589 (-)	65.8	25.00
19.3 予	640,000 (▲ 11)	22,000 (2)	29,000 (16)	10,000 (▲ 40)	39.6	12.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2018/12/14)	1,627 円
年初来高値(高値日)	2,739 円(18/5/1)
同 安値(安値日)	1,582 円(18/12/10)
予想 P E R (19.3 予)	41.1 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,585.6 円
P B R	1.03 倍
予想配当利回り	0.74 %
(1株当たり配当金12.00円)	
ROE(18.3)	4.3 %
発行済み株式数	25,905 万株